

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第5回）議事要旨

1. 日 時 平成23年5月11日（水）13:30～15:30
2. 場 所 文部科学省東館3F2特別会議室
3. 出席者 （委員）
永井座長、有賀副座長、梶谷委員、河上委員、北田委員、木下委員、佐藤委員、里中委員、関委員、高鳥委員、成瀬委員、三浦委員、三村委員
（協力委員）
石川委員、舟久保委員
（事務局）
文化庁：関文化財部長、大和文化財鑑査官、栗原古墳壁画室長、矢野記念物課長、建石古墳壁画対策調査官 ほか関係官
独立行政法人国立文化財機構：
東京文化財研究所 石崎副所長・保存修復科学センター長、岡田保存修復科学副センター長、川野邊文化遺産国際協力センター長 ほか関係者
奈良文化財研究所 高妻埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 ほか関係者
4. 概 要
 - (1) 開会
 - (2) 委員及び出席者紹介
 - (3) 事務局の異動について
 - (4) 議事
 - ①キトラ古墳壁画の保存・活用について
キトラ古墳壁画の保存・活用について、事務局から資料2に基づいて説明が行われた後、以下のとおり意見交換等が行われた。
佐藤委員：取り外したキトラ古墳壁画を再構成することは考えていないのか。また、調査は全て終了したのか。
古墳壁画室長：取り外した壁画は、面として再構成することを考えている。また、調査は引き続き実施していく予定である。
佐藤委員：壁画を再構成する作業は、現在の保管施設で行うのか。
建石調査官：平成28年頃に開園予定の国営公園の中でどのように位置づけるかということに関わるが、開園までの間は、高松塚古墳壁画修理施設の中でできることを進める予定。
河上委員：石材が凝灰岩なので、調査を行えば、ちよなや、のみ跡などの形跡が出てくると思うが、石材の調査は行っているのか。
建石調査官：今年度中に、床面だけでなく石室全体の調査を行う予定である。
木下委員：壁画を再構成する場合、石と石との切れ目を一枚一枚保存修復するのか。
建石調査官：キトラ古墳の場合は、図像の途中に石の切れ目が入っているので、石と石の切れ目を保存処理するのではなく、図像の全体性を留意しながら作業を進めたいと考えている。
成瀬委員：風致地区等の関係で高い建物は建てられないと思うが、建物を平屋にした場合、日照の影響を受けることがあるので十分考慮に入れてほしい。また、今回の大震災の時に起きた停電等の緊急事態に対応できる構造にしていきたい。
河上委員：体験学習館での壁画の保存管理・公開について、国土交通省との連携はとれているのか。出来上がってみると展示施設になっていないという事態は避けてほしい。
舟久保委員：今後、建設を予定している体験学習館の具体的な設計、施工、管理については、現在、文化庁と調整中であるが、今後も、ご指摘のことを注意しながら文化庁と具体的な調整を進めていきたい。

古墳壁画室長：文化財の保存管理・公開については、文化庁が主体となって行うことにしているため、ご懸念のような事態にはならないと考えている。国土交通省とよく連携して実施していきたい。

佐藤委員：取り外した壁画の保存・活用だけでなく、平成28年度以降も調査研究が行える恒久的な体制についても考慮に入れていただきたい。

②キトラ古墳の整備について

キトラ古墳の整備について、事務局から資料3に基づいて説明が行われた後、以下のとおり意見交換等が行われた。

河上委員：せっかく壁画だけを取り外したので、石室の中を見ることができるようになれば意味がないと思う。

佐藤委員：石室を全く公開しないのは問題があると思うが、公開すべきでないという意見もあると思うので、中間的な措置として、石室の中の画像がいつでも見られるようにするなど、できる範囲で公開する方向を目指してほしい。また、高松塚古墳では当時の古墳の姿を見てもらって、キトラ古墳では残ってきた過程を見せる方法もあり得ると思う。壁画の保存活用施設だけでなく、史跡の古墳まで足を運んでもらえるような形が望ましい。

木下委員：今年度実施する予定の底石等の調査結果によって石材の傷み具合等が分かると思うので、石室の公開については、調査結果とともに今後予想される大きな地震等も考慮に入れながら検討すべきと思う。造墓の思想背景を含め、現地に残っている痕跡を全体として理解できるよう、あまり手を加えない方法で整備した方がよいと思う。

河上委員：どの古墳でも当初の形に復元するという材料が見つからないので、墳丘は極力触らないようにして、石室だけを見せるということならできると思う。

関委員：古墳として整備するのであれば、景観も踏まえて、全体的に古墳であることを分かってもらえるよう、当時の姿が想像できるものができたら地元としては一番ありがたい。また、石室は博物館等の施設で見せられるのがよいと思う。

三浦委員：石室を見せる場合、石室への開口部を作らなければならず、何らかの建物を造らざるを得ないが景観の問題が出てくる。また、石室を開けばカビの問題が出てくる。どの装飾古墳でもカビやコケの問題を抱えているところが多い。テレビカメラを入れるという方法もあるが、テレビカメラは湿気があると壊れるので問題があると思う。

高鳥委員：おそらくカビの問題はいつまでも残る可能性が高いので、環境に変化がなく石室が見られるということを考慮していくことが大事だと思う。

佐藤委員：茨城県の国指定特別史跡の虎塚古墳は、1年で何日間かだけ公開する方法により比較的うまく実施できていると言われている。中国の世界遺産の高句麗壁画古墳では、中にカメラを入れており、隣のモニタールームでリアルタイムの画像を見ることが出来る。うまく実施できている事例や問題のある事例をこれから検討していただきたい。

永井座長：事務局において、様々な情報収集を行い、次回までに整理しておいてほしい。

③高松塚古墳目地漆喰に対する紫外線照射の影響について

高松塚古墳目地漆喰に対する紫外線照射の影響について、事務局から資料4に基づき説明が行われた後、以下のとおり意見交換等が行われた。

梶谷委員：紫外線を漆喰に当てても色みの変化や漆喰の強度には影響はなかったのか。

建石調査官：影響はなかった。紫外線は有機物には影響はあるが、無機物である漆喰には影響はない。

高鳥委員：照射時間と照射距離以外に、長波長と短波長の別や照射強度に関するデータを持っておくとよいと思う。今回の実験で使用した紫外線は殺菌能力が高く、2時間照射しても変化がないということは、目地漆喰に対して影響がないと判断していいと思う。しかし、カビや細菌は湿った状態のときに発生するので、クリーニングで使用するのは構わないが、むしろ、湿った状態のときに使用すると有効だと思う。

建石調査官：現在、キトラ古墳壁画の保存活用のあり方について、ご検討いただいているところであるが、それに係る基礎的な情報を得ることを主な目的として、今年度からキトラ古墳壁画を対象とした材料調査を実施して参りたい。

永井座長：今後、高松塚古墳壁画、キトラ古墳壁画ともに、安全かつ適切な方法を選びながら修理・調査を実施していただきたい。

④史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）の保存対策について

史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）の保存対策について、事務局から参考資料1に基づき報告が行われた後、以下のとおり意見交換等が行われた。

木下委員：昔の写真では直弧文がよく残っているが、最近の写真では下の方が水没した状態で非常に傷んでいる。劣化原因についてどの程度解明されているのか。

建石調査官：岡山市のワーキンググループでは、劣化原因について調査が進められているが、その中で、水の圧力の問題や、石障の表面に剥がれやすい面があって石の層理面が壊れていること、水がたまる構造を変えない限り事態を改善できないこと、水をとめて乾燥させると石はもろくなることなど、様々な科学的検討がなされている。

河上委員：石室を構成している石材は、劣化していないのか。

建石調査官：石障の劣化が目立つが、実際には、石障以外にも劣化している部分があると聞いている。岡山市のワーキンググループでは、石室全体をどう守っていくかということも含め、まずは石障を取り出そうという議論をしている。

佐藤委員：石室を見た印象では、今開いている開口部から石材を運び出すのはなかなか困難だと思う。石障を保存するために石室を壊してしまえば元も子もないので、石室全体をどうするかということも含めて検討してほしい。

⑤国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開について

高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開（第7回）について、事務局から参考資料に基づき説明が行われた。

(5) その他

事務局より、次回の日程等について連絡があった。

(6) 閉会

以 上